

北海道石狩湾産プランクトン調査 昭和50年夏季および  
秋季の動物プランクトン生体現存量

小島守之

石狩湾における昭和50年の夏季および秋季の動物プランクトン生体現存量には顕著な季節的変動は見られず、平均0.5~0.7g 湿重量/m<sup>2</sup>/0-20m水柱の値を示す。また、同湾内の動物プランクトン生体現存量は沿岸部で少なく、沖合に向うにつれて増大する傾向を認めた。さらに、10月の同湾の動物プランクトン生体現存量の約4割は橈脚類によって、また、約3割は毛類動物によって占められることを明らかにした。石狩湾の動物プランクトン生体現存量値ならびに動物プランクトン組成は、10月の同湾海域が暖海域的性状を有していることを示唆している。

A90 北水試報 19 1-11 1977

礼文島におけるエゾアワビの浮遊幼生および底生初期の  
稚貝

富田恭司・田嶋健一郎・工藤敬吾

北海道礼文島においてエゾアワビの浮遊幼生の出現状況について調査した。また、エゾアワビの幼殻の特徴について形態学的観察を行なった。エゾアワビの幼殻は長径0.28mm、1/2回旋で、彫刻模様は体の右側面で特に明瞭であり顆粒と条線よりなっている。幼殻の周口部は約0.13mmで全体の1/2を占め、殻頂は体の右側面に位置する。底生初期の稚貝の幼殻部と浮遊幼生の幼殻とは形状、彫刻とも、まったく一致した。エゾアワビの浮遊幼生は、8月上旬ごろより9月下旬ごろまでの水温がほぼ20°Cのときに出現した。エゾアワビの浮遊幼生の採集数は非常に少なく、これは浮遊期が短いことも一因と考えられた。

A91 北水試報 19 13-19 1977